

平成 28 年 9 月 5 日

全日本オリエンテーリング大会プロデューサ就任について

(有) ヤマカワオーエンタープライズ

山川克則

私、ヤマカワオーエンタープライズの山川は、2016/5/6 付け日本オリエンテーリング協会（以下 JOA）公示において、**全日本オリエンテーリング大会（ロング）プロデューサに就任**いたしました。ここに至るまでの経緯と今後全日本大会をどのようにしていこうと思っているのか、それにはオリエンテーリング各団体、各競技者にどのようなことを訴えたいのか、お願いしたいのか、一度文章にしてここでまとめておきたいと思います。本来ならすぐにもでも発表すべきところを、ここまで遅れてしまって誠に申し訳ありません。相変わらず常時忙しいのに、スマートに仕事できない不恰好な生き様で熱意や思いが先行し勝ち（& 言い訳には出来ないが、慢性病による健常人より限られた時間）、しかもこの問題はとても根が深いのに、多分そうは思っていないだろう人達に、ちゃんと理解できるような説明が（文章を書くのか下手な）私にそれができるのか、と逡巡しているうちに（つまりとても気の重いまま）このタイミングになってしまいました。相変わらず読みづらいかもしれませんが、少なくとも誤解を元にわが国のオリエンテーリングの将来を語ってほしくない、未来はみんなで考えていこうよ、という立場に多くの方が立ってもらいたい、という思いから書いていきます。なので、かなり重い内容（重い問題だと認識して欲しい内容）になっています。特に、学生オリエンテーリング界に対するオリエンテーリング界全体への関わりについて、大きく見直しましょうということを述べています。日本学連関係者においては、予告的な話が先行し、資料出しが遅れて済みませんでした。検討すべき課題を、できるだけ詳細に判り易いように努力して書いたつもりですので、9月幹事会、11月総会、1月幹事会で議論を深めていただき、3月総会では一旦の結審をお願いするものです。（中で展開する詳論では、もっと前倒しで方向性を議論していただく項目もあります）

全日本大会の開催危機！？＜志望動機＞

昨年度に、JOA の財政危機・存立危機という話が、会員である各都道府県オリエンテーリング協会（以下、県協会、もしくは JOA 会員で短く表記）からの下部団体への情報伝達、およびオリエンティアマーリングリスト（以下 OLML）などを通じて駆け巡りました。その時に JOA（主に理事会）から提示された改善策が、登録費の大幅値上げという策でした。それ以外にも会員の会費および指導者登録費の一部が“組織育成費”として会員にキックバックされていたのが廃止され、また公認大会に対して“JOA 会員支援金”として、一人 1 大会 1000 円（スプリントは 500 円）参加費を上乗せして徴収し、納金することになりました＜JOA の web “規定” 2016.2.7 付＞。その話と前後して、同じ時期、正確には少し前に、もう一つ JOA の屋台骨を揺るがず様な話が出ていました。それが、“全日本大会(ロング)の開催危機”という問題です。

全日本大会は、この 3 月の愛知県岡崎市で行われた全日本大会までで、開始以来毎年欠かすことなく 42 回を数えています。資料は下記。

＜全日本大会開催地・開催日（JOA のページ）＞<http://www.orienteering.or.jp/event/joc.php>

＜全日本大会データ＞（原野さんまとめ）<http://www2u.biglobe.ne.jp/~harano/ol-age/teigen-4.pdf>

実際には愛知の次の全日本開催が決まっていない。地区当番は、関東ブロック（関東ブロックは 3

年に1回)現状では、どこも引き受け手がない。3年前にも同じようなことがあり、役員を関東ブロック全体で引き受けてくれるのなら、トレインは提供してもよいよ、ということで長野県菅平高原で行ったものです。この時も地図作成面では、関東全域からスタッフを呼び費用が高むので地図面で十分な費用は出せないが、リメイクだし何とかやれる範囲で協力して欲しい、ということで強く頼まれてヘルプに入りました。同じようなことは関東の当番であった第32回でも第35回でも私はスタッフとして関わっています。その頃から私なりに、“(開催危機だから助けてくれと言われて協力してきたけど)全日本大会これで良いのか?”というスタッフとして関わっての思いは、その度に強くもっていき、折に触れてJOAの関係者には色々意見していました。しかし、相変わらず全日本は同じように何とか進んでいって進んでいきます。菅平の全日本も何かと反省点・問題点の多い大会ではあったのだけれど、この大会を推進したJOAの業務執行理事である木村氏もこの全日本のフレームでは将来が見通せない、と思うに至ります。まずJOA内部の役員でワーキンググループ(以下WG)を作り討議が始まりますが、その1次WGでは問題提起に留まり、議論にほぼ進展は無かったと聞いています。(2015.3.8付けJOA公布資料の中に記載)。そして、パブリックコメント(一次)募集、第2次WGを公募、と進んでいきます。かねてよりJOAに意見する時は、外からでは何も変わらないと思っていた私は、これはプロ事業者の立場で、ここが、ちゃんと正統にモノが言える場だと思い公募に志願しました。そして第2次WGの中で活発な議論が開始されました。全日本大会の開催不能状態に対し、具体的な解決案をJOA理事会に答申することが目的です。以下関連のJOA公式広報のページを列記します。

JOA 広報アーカイブ <<http://www.orienteering.or.jp/archives.html>>

2015.03.09 [全日本オリエンテーリング大会を考える、パブリックコメント募集](#)

2015.05.25 [全日本オリエンテーリング大会を考えるワーキンググループ 2015 メンバー募集](#)

2015.06.29 [全日本オリエンテーリング大会を考える、パブリックコメント公開](#)

2015.10.21 [平成 29 年\(2017 年\)以降の全日本オリエンテーリング大会のあり方について、第2次中間報告とパブリックコメント募集](#)

2016.01.04 [全日本オリエンテーリング大会を考える、第二次中間答申に対するパブリックコメント公開](#)

2016.03.28 [全日本オリエンテーリング大会プロデューサ募集について](#)

2016.05.06 [全日本オリエンテーリング大会プロデューサ決定指名について](#)

そもそも全日本大会は必要な大会なのか？

パブリックコメント募集に際しては、以下の4要件に対して、広くオリエンティアから意見を求められました。

・毎年開催 ・地方持ち回り ・年齢別選手権大会 ・ロングディスタンス競技の日本選手権大会

このうち寄せられた意見は“全日本大会”は続けて欲しいということで、「地方持ち回り」は違うのではないかと。あと広いエリアが確保するのが難しければ2マップでもよいのではないかと、などが寄せられました。実際に寄せられた意見は上記のリンクで詳しく掲載されていますので、時間のある方は見ていただければ良いかと思います。WGの中で、私は以下の視点で重点的に議論を展開することになります。

私が“全日本(ロング)大会”は絶対に無くなってはいけない大会だから協力してくれ、と過去代々言われてきて、実際に色々な事情から参加者にとって満足いく大会までもっていくことができなかつた大会も自ら自覚していますが、最低限何とかはしてきました。(実際、何とかするという観点において、

逆説的ですが、この日本に私以上の人材はきっといないでしょう。) それで、色々な意見はあるもの、私自身の意見も、“全日本は何としても継続しなければいけない。”です。なぜなら、それは「全日本大会」という名の通り、日本のオリエンテーリング界を代表する(第一優先の)大会であるから。多分、インカレ向かう強烈なモチベーションを若いときに大きくは経験していない世代、だいたい40代後半位から上の世代はそう思っているのではないのでしょうか?だとすると、問題は何なのか?パブリックコメントでも切り込まれていない側面から、私の議論は展開していきました。

現状、全日本大会の参加数は交通が便利な所で開催しても500人~650人がよい所、前出45歳位から上の年代が、都合が悪くない限りオリエンティアとしてほぼ全日本大会に参加する層、それから下(いわゆる地域クラブ等の関わりがあまりなく大学でオリエンテーリングを始めた年齢層)は、徐々に参加率が下がっていき、学生および卒業して5年以内位の層は普段オリエンテーリング活動していながら全日本に参加するのは半分以下、というのが現状です。つまり若いオリエンティアの半数以上は、全日本大会は大切な大会だとは思っていない。魅力ある大会ではないので、参加しようという気持ちも起きない、という現状があります。出てくる人は、年齢別選手権として真剣勝負なので、その価値を下げると言うつもりは毛頭ありませんが、苦勞して地図を準備していても、本来あるべき対決の様が現出できないことには一番時間のかかる裏方作業(地図製作)に関わるものとして、ここ数年残念な気持ちも一杯でした。

そしてそれは、大会運営の財務にも大きな影響があります。オリエンテーリングは生涯スポーツです。ほぼすべての年齢層が参加するのであれば(インカレと公認大会がコラボした最近の例をみても)一時の底値状態は脱して、だいたい900~1000人位の集客力があるはずですが、600人と1000人では、準備する内容がほぼ同じであるのに、会計規模に大きな差が生じます。しかも種目はロング、地図面積の大きい負担の大きい種目です。そこが実は、地方協会が財政的に疲弊してしまう元凶だったりするのです。

もう一つの側面は、否応無く全ての人々が年を取っていく、ということです。高齢者はもっと年を重ねて、いずれ動きは悪くなる、若い人もどんどん高齢者の仲間に入っていく、その状態で今、各県協会のリーダー(大抵は45歳以上)が、苦勞して何とか(プロの力を一部借りたとしても)全日本大会をやりとげたとしても、現状の若い人の半分以上に見向きもされていない状態で、果たして10年先が見通せるでしょうか?

WG内の座長である木村執行理事の当初の提示は、全日本大会は今でも600人の定常的な参加数が期待できる。ロング種目として地方協会が引き受けるには、今では過大な負担になってしまいましたが、これをどうすれば継続可能なものにできるか、というものでありました。各県協会の持ち回り労力では継続が厳しくなってしまった全日本ロング、ならばプロ事業者が参画して、継続開催の道筋を開いて欲しいという期待も座長にはあったのかもしれませんが、プロとしての経営判断は、600人でロング1本は、できないことではないけれどちょっときつすぎます。どっかで無理をして、何とかしましょう...で対応する部分が必ず出てきます。勢い評判を落とす結果にもなりかねない。(多分世間ではプロ事業者に対して実際そういう評価の全日本もあったでしょう。)インカレより厳しい条件での継続開催。しかも、全日本をより良いものにしていこうという中央組織内のリーダー不在、どう見たって現状の全日本はビジネスとして魅力的なものではありません。

次に私自身のジレンマを書きます。全日本大会が立ちゆかなくなるということは、その名の通り日本を代表する大会がなくなるということ、日本を統括する中央組織が機能しなくなる、ということだと思っています。しかし、それを責任をもってリードする中央組織内の人材が見当たらない。今まで自分が意

見してきたことも、外から発言しても無駄。本当に改革しようと思うのなら、中から発言し行動する、そしてそのことに責任を持つ、方法はそれしかない、プロとしてそのことに取り組もうと思いました。

今の全日本・JOA の状態で今まで日本のオリエンテーリング界で自分が築いてきた財産（地図や涉外）は果たして自分が居なくなった時も残って続いていけるのか？ 自分の残された生の期間、全日本大会を日本を代表する組織の看板大会として、真に求心力のある大会に作り変えることに力を注ごうという思いになりました。全日本が 900~1000 人なら、そしてその大会が魅了的なものなら、大会後の財産が、真に地元の財産として活用できるものであるなら、全日本は誘致合戦になるかもしれない、そんな思いをもって提言作成に関わっていきました。つまり、これは後進のプロ事業者が安定して仕事が行え、また日本全体の中央組織が真に求心力のある魅力的な大会を継続して開催していくために、今まで言っても通じなかったことを、中に入って行動していこう、ということです。今までの決してかっこよく仕事をやってきたわけではない私が、泥かぶるなら甘んじてかぶろう、そのことによって後進に道が開けるのであれば、それでよし。そういう気持ちです。

インカレが築き上げてきた価値はこれからもずっと続くのか？

インカレは JOA の前身、JOLC が政府の執行機関・国民体力づくり運動の一環としてお金もヒモもついていた時期から独自の歩みを始め、自立した運営をしてきました。インカレは全日本大会に遅れること 4 年、1979 年 3 月より開始、日本のオリエンテーリングの発展に、主に競技（地図・コース・コーチング etc）の面で寄与してきました。いわゆるダブルスタンダードであったのですが、インカレがなければ日本のオリエンテーリングはここまで辿り着けていない（それでも世界の進歩より遅れを取っているがそれはこの論ではないので横におきます）。ダブルスタンダードで JOA からの組織的干渉を受けずに、インカレが独立独歩で歩んできたからこそ、人材の面でもお金の面でも、ここまでやれてこられたと言えます。オリエンテーリングをプレイするという点では共通でも、そこに集う人の価値観はその中でのみ形成される。インカレに向かうモチベーションの中で育った人達、これを仮にあまり言葉のイメージは良くないけれども、「インカレ至上主義」としましょう。勿論そんな孤立して発展してきたというわけではなく、関わった人それぞれが程度の差こそあれ、ダブルスタンダード的に各人各様でインカレにも JOA にも関わってきました。今の JOA の役員の中にもインカレを経験した世代の人間は多いです。私は、さしずめ「インカレ至上主義」の頂点に君臨？している存在なのでしょうが、時として今年の全日本は（色々な理由で）協力して、と言われ、インカレとは比較にならない条件で何かと手伝ってきました。全日本大会 42 回の歴史で、そういうのはゆうに 10 回を超えます。

しかし今は、全日本大会の開催自体が本当に覚束なくなっている。JOA の会員マターでの開催（議論の中では、「地方丸投げ」という言葉を使った）では、もう続けることはできないのです。全日本の開催ができないということは、その国を代表する一番の大会をそのスポーツの中央統括組織ができないということ。屋台骨をゆるがす緊急事態なのです。つまり存立の危機であると。JOA に対する不満、中で何が話し合われているのかよく見えないとか、意見をいっても通じないとか、まあ組織の中の壁や色々な事情があるだろうけど、皆さんも実は当事者意識がないのではないかと。インカレの自主独立の価値観形成過程を皆さん目にしてるので、第二 JOA を作ろう、なんて声も SNS とかでは聞こえてきますが、実際はオリエンテーリングの正統な中央組織がなくなったら、この国の全てのオリエンテーリング活動が頓挫する。オリエンテーリングはそれだけの社会性をもったスポーツなのです（生涯スポー

ツとか運営や地図準備に他のスポーツとは比較にならない位の労力が必要、ここの論点は展開するときと長いが、今日の主論点でないので、ここままで)

さて、そんな問題は今更私がここで言うことではなく、もう何年も前からあちこちで話には出ていました。もちろん JOA 内部の人の中でも。公認大会開催の低調さなどもその中の話ですね。国を代表する大会に若者の大半が出ない、出場する興味も沸かない、そういう状態はもう何年も前からの状態。皆の中の話に出ないわけがない、そんな中でも、会員である県協会は何とかかんとか努力して開催にこぎつけてきたのです。問題があると判っていながら、JOA の中の人で誰も率先してそれに手をつけようとする人はいなかった。競技委員会からのここ数年の数多い特例措置の公布（しかもそれ、微細に入りすぎ読みづらい）などをみても、その場をクリアする解決方法でしか執っていない。つまりわかっているが、自ら率先してそれに動くということではなく、問題を放置してきた。しかも誰も責任取っていない。勿論、JOA はいろんな人がいろんな立場で集合し、それぞれの担当分野もあるだろうから、自分がどこまで手をつけていいのだろうか躊躇するということはあるだろう。私も数多くのお助け現場を経験して、そのつど問題点などを折りにふれて JOA の中の人に指摘してきましたが、結局外部の声は外部の声、きちんと扱われることはなかったです。今回、私が、第2次WGへの応募、提言案に、全日本大会の中央直轄型の運営、プロ事業者が中に入っの参画などは、こうした背景から自ら動いたということがあります。結局は、中からでないと JOA は絶対に**変えられない**。そしてそれは責任を明確にして臨まなければならない（つまり失敗したら責任を取る、失脚するということである、そもそも私は JOA の役員という立場をいただいた訳でなく、いちプロデューサ、外部から中に入ってきたコンサルタントである。組織上の位置づけは今回 JOA 内に常設された全日本大会実行委員会にあり、つねに解任もあり得る立場である。詳しくは下に立候補届出書とヒアリング回答を載せているのでそれを見て下さい。

(WGでの議論内容、パブリックコメントの内容、理事会への答申内容などは JOA の web の〈お知らせ (アーカイブ) 〉にありますので、そちらを参照してください。但し、本日現在、本年2月7日に行われた理事会への WG の答申内容、そこで設立された常設の全日本大会実行委員会、そしてプロ事業者も参画できる（但しその業務自体は無償）プロデューサ公募に至る経過内容は掲載されておらず、いきなりプロデューサ公募の公布となっていますので、その辺の流れが判りにくくなっているかもしれません。それに 2/7 理事会議事録もまだ公開されていませんし…)

具体的な改革案について語ります。

次に全日本改革の具体的な方策について自分の案を述べます。任期は2年ですので、これか2回の全日本で再び、日本を代表する全年齢層が参集するビッグ大会の地位を取り戻す必要があります。また全日本大会の財政改革も急務です。地方丸投げ時代に、金銭的にも地方協会を疲弊させてしまった全日本を、再び誘致できれば地方協会間の誘致合戦が行われる位まで好転させることを目標とします。ですので、新規トレインとまでは行きませんが、数少ないわが国の良質トレインで私の渉外的アプローチが及ぶトレイン、しかもまだ拡大もしくは改良の余地を残して新鮮さやより洗練さをアピールすることができるトレインということで、トレインコントロール、つまり初段階で計画的に入山規制するというアナウンスメントをまず実行します（すぐに常設実行委員会を通して JOA 公示が行われるはず）。**全年齢層が集う大会**、ということに関しては、ここまでダブルスタンダードが離れてしまった現状では、ちょっと

荒療治が必要です。パブリックコメントの中にも、“全日本とインカレは統合すれば良い”的な意見がいくつかありましたが、結局はそこに行き着きます。しかし、ダブルスタンダードがここまで離れてしまった以上その改革は、インカレ側にとって現状の価値を全否定することになり、私も一瞬考えましたが、今はまだ無理です。そもそも私は言ってみれば「インカレ至上主義」の頂点にいる人物、そもそも「インカレ至上主義」を肯定しています。インカレがより高いものをこれまで目指してこなければ、日本のオリエンテーリング界はこのレベルにまでもさえなっていなかった、そう断言します。それで、私が主張したいのは、いちオリエンティアが、いち団体が成長していく、ステップアップしていく過程において同じ方向を向きましょう!ということです。そう考える時、学生の定例イベントを維持したまま全日本と混じられる唯一の機会は、“セレクション”、つまりインカレ予選会にあるということに結論づき、プロデューサー応募案に盛り込んでいます。(勿論、第2次WG内では、それを前提とした案に関しても、かなりの議論時間を割きました)その後、チョコチョコとは自分の案を、周辺には漏らしていましたから、セレ(予選会)でも、インカレと全日本がまじわることは細かく検討しだしたら厳しいのではないかという思いも自分の中にもあり(自分でもここ数年の競技委員会公示の様に、色々場合分けして細則を考えてみました)、また、背景を知らない学生からはセレと全日本がコラボするなんて絶対反対であるとのコメントなども聞こえてきています。しかし、(全日本やJOAがつぶれても)インカレだけが今の価値観のままずっと維持して存続していける、それも幻想なのです。誤解のないように説明しておきます。学連は設立当初からの理念である学生自治、その学生自治とは私が大学在学期間の全てを捧げて守り抜いた大きな理念です。なので、決議する権利は今でも学生自身が有しています。学生の手で反対してつぶすことも勿論可能です。そうなれば、公募により外部から施政者となった私は失敗人事だったということで、責任を取らされます。解任か辞任かはともかく、オリエンテーリング界の殆どの立場を失することになるでしょう。オリエンテーリングは涉外とか裏支え部分で極めて社会性の高いスポーツですから、その先がどういうことになるかは、頭の良い大学生ならまず思い及ぶことでしょう。…とこのようにこの改革には学生界に脅しの効く人物であることも採用要件であることはWG議論の中で出しました。インカレと全日本、両方がお互いの価値観を崩すことなく、高みを目指す上で同じ方向を向き、時に混じわる。公募・ヒアリング回答を書いている時は、まだ私も細則論を作るところから抜け出せていませんでした。しかし、ここにきて少し光明を得たような案を考え及ぶに至りましたので、これを元に各方面で検討をしていって欲しいと思います。どちらも譲れる部分は少ない筈です。それに、もう一つあちこちから指摘されている、公認大会の見直し・活性化にも、大きく一役買える画期的な案です。JOA 公示で私の職務が明示されたように、まずは今回は全日本ロングだけが対象です。この改革がうまくいけば、いずれミドルもということにもなるかもしれませんが、それはさておきます。また、全日本のE権は、予選においてフォレスト種目というだけで、ミドルでもロングでも全日本E権につながりますが、これも当面は学生側からは譲って考えて下さい。

全日本大会とインカレ予選の融合……これだけが、まず参加者数を回復する即効性のある方法

<JOA を身近に感じられない分、皆にはあまり危機感がないだろうが、そこまで JOA・全日本の危機はきている。何人かが口にしているように、策を打つのは遅すぎた位。山川が中に入って今回行う改革案が失敗に終わったら、きっと大きすぎるほどのダメージが、全日本・JOA 側にも学連・インカレ側にも残るだろう>

→例年各地区のロングセレが行われている6月第3週で全日本大会を設定、トレインコントロールを直

ちに行いクローズトレインを公示する。

第 43 回全日本大会 2017 年 6 月 18 日(日)開催予定 栃木県矢板市

クローズトレイン「矢板日新」「矢板山田」

運営母体:栃木県協会、関東ブロック会議、セレ実行委員会

トレインは若干拡大(新規範囲でも競技を行う)、地図表現はさらに洗練度を増す

第 44 回全日本大会 2018 年 6 月 17 日(日)開催予定 岐阜県中津川市

クローズトレイン「椈の湖」 運営母体:岐阜県協会、東海ブロック、セレ実行委員会

トレインは、1991 年 3 月インカレ当時のエリアまで拡大、1 枚の地図で 12 キロのコースが組める範囲

→全日本は WG 答申内容にある通り、年に一度の全年齢層にわたるオリエンテーリングの祭典であると同時に年間最強王者を決める選手権大会、その出場権（E 権）を所持しているものは、もれなく全日本選手権の方に出ていただく。それと同時にセレクションクラスが設定されるという構成

→学連が JOA 非加盟の頃は、その部分だけ非公認大会とか、その後の公認大会に出場するには、どうのこうの、という細則が都度公示されてきましたけれど、今は学連も JOA の正会員、学生は全員 JOA 登録者である。年齢別クラスの規定が、JOA のと異なるが、そこをうまく解釈するとして、セレクション自体を公認 A 大会の一クラスであると位置づけ、昇格要件の再議論を競技委員会にもお願いしたい。

→20E であれ 21E であれ、資格を得たものは全日本選手権の方に出場せよということは、つまりセレクション免除ということである。つまり公認大会フォレスト種目で E 権を獲得することはイコール、公認大会も数あるセレクション予備レースということになる。（この部分を決するのは、学生自治団体である学連、まだまだ公認大会にそこまで期待するのは不安要素いっぱいだろうけど、改革は待った無しなので、ここは大きく譲って欲しい）これは、**公認大会活性化、良い意味での緊張感を生み出す効果**もあると見ている。学生の動員が大きく望めるのであれば、いままで躊躇していたが公認大会開催に踏み切る団体も多く出てくるのではないかと期待できる。参加が増えるということは、その分動く金も大きくなるから、若いプロ事業者が活躍できる場も多くなるのが期待できる。質の均一化や全日本の E 権にミドル・ロングの区別が現状ないことなど課題はあるが、多くの関係者の英知を結集して、高みを目指す上で同じ方向を向く、という理念から解決策をさぐって欲しい。

→学連の規定的には、ロングセレ要項発表前の一定期間の全日本選手権クラス出場権獲得者を前年同種目入賞者と同じく、セレ免除者とする（ここまでは地区割等も関係ない、一旦沈み込んだ地区学連が出場数を再確保するのに、今の制度だと結構時間がかかってしまうのも少しはこれで解消される）、その上でセレを通じて、インカレロング選手権クラスの出場できる人数を割り振り（これは技術委員会の仕事）、各地区ごとにセレクションを開催する。

全日本大会を開催する地区においては、そのまま全日本大会のセレ専用クラスで、選考会を行って欲しいが、当該地区でなく遠方で全員参加が難しい地区学連は、2 段階選抜式（今でも北東と北信越は 2 段階選抜式）にして、全日本大会でもセレ通過一定枠を設けてセレ参加して欲しい。

→学連的は、それでもまだ問題が多分ある。現状の男子 60、女子 30 という枠数では多分収まり切ら

ない危惧が当然でてくる。この数字はここ数年慎重に議論し、インカレという晴れ舞台が、それこそ大舞台であるという設計思想で決めてきたものだけにである。しかし、これも学生側には、構造改革の軋みが収まるまでは、将来にわたる全日本・インカレの存続のために、譲って欲しい面である。インカレだけの世界で今までの価値観が将来もずっと継続していける、それは幻想に過ぎないことを理解して議論して欲しいです。まだ問題はあります。来年6月のロングセレでのことを語っていますので、もしこの案で行くと成れば、期限的に今決めないといけないことでもあります。前戻りはできないですから、正式決定は後付でとして、プレアナウンスとして扱うにしても、これから行われる公認大会に対して摘要（そしてGW位までに開催される公認大会に対してかな）ということになります。少なくとも、E権獲得者は、今後の議論によりセレ免除になる可能性があります、というアナウンスが今月中位に必要です。（今度の幹事会？）またすでに現時点で来年6月の全日本E権を得ている者はすでにセレ免除という、これは過去に遡るベクトルでの措置になりますが、それも譲歩していただくことになります。

→今のJOAの年齢層規定は本場北欧の規定（IOFの規定でもほぼ同義）をなぞったもので、E権獲得規定において、20Eと21Eではその実力に大きな差があり、現役入学ベースで3-4年生は大きく不利、というのはまず問題点として挙げられるであろう。本当に現役学生時代から強くなって、全日本のチャンピオンを目指そうという人は勿論、公認大会で21Eに挑戦しつづけなければよいだろう。もしそれで出場資格が得られなかったとしても、全日本大会と同時開催される、セレクラスを通過することは容易なことだと思われる。問題なのは、そこまでの実力はないけれどインカレは絶対選手権クラスを走りたい、と思う4年生のモチベーションが現時点での年齢規定では壁がある、ということである。ここは競技委員会に譲ってもらって、4年生も20Eの出場資格を得られるクラス（もしくはクラス名称を変える）を公認大会で設置するよう、強く求めたい。もともと年齢別クラスを日本の学区制にきちんと合わせよう、という議論は前からJOA内のあちこちで起きています。この機会に手をつけて欲しいと全日本大会プロデューサーは強く望んでいます。

→この項目の最後に、全日本は絶対必要、ずっと出続ける、という層と学生オリエンティアの根本的融合がなければ、わが国のオリエンテーリングは、今後高齢化の波がさらに加速すること、絶対に存続できません。セレを融合するというのが、そのためのまず変容できる即効的は一方法、その中で本当にどうすればよいのかを考えていきましょうということです。主役は私ではありません。実際にそこにいる全年齢層のplayer達です。

全日本大会は変わる！

→地方持ち回りから、中央直轄へ わが国のオリエンテーリング界を代表する大会

競技オリエンテーリングの位置づけ・定義 ”あらゆるナビゲーションスポーツの核心の部分は競技オリエンテーリングの中にある。言い換えれば、ナビゲーションスポーツの王道” 質も規模もナビゲーションスポーツの王道にふさわしく、周辺種目からも全日本の日は王道種目に挑戦する、名実ともにそのような内容になるような大会にしたい。

→プロデューサーというのは、そのグランドデザインを描く人（しかも公示にある通りその部分無償、将来のオリエンテーリング界のために、仕事して関わる後進のために、その部分での新たなマーケット

開拓ができなければ、インカレやクラブ7人リレーの成功だけでは、自分のレゾナードルがない、そういう考えで応募しました)、実際に各プロジェクトで動くのは、この国でのその分野でのリーダー達を起用することを考えています。それこそが中央組織直轄で全日本大会を行うことの真意です。なので、私に誘われたら、色々相談に乗って下さい。あるいは私に積極的に声をかけてきて下さい。地図調査ももっぱら若いマッパーに活躍していただくことを考えています。自分の儲けにつながる部分は少なく、責任の重い仕事ばかりです。JOA・全日本大会の危機に乗じて、仕事持って行ったということでは決してありません。その上で、私にとっては失敗するとクビになるという、自分のオリエンテーリング人生の中で最後に賭ける大きなリスクかもしれません。

→話を戻して、中央直轄大会といっても中央の人員は限られます。大規模大会の各パートの要員は、該当地区（あるいは該当ブロック）の協力を得ないと成り立ちません。ヒアリング回答書にある通り、全日本大会の運営を、「専門特化部門」と「ルーチン運営部門」に分け、「ルーチン運営部門」では、例えば次回では、元々関東ブロックで何とかしようと言っているながら、中心開催地としてどこも手を挙げなかった実情がありますから、人員確保に協力していただきます。それはもう 4/24 のブロック会議に私も出席・説明をして了解をいただいています。「専門特化部門」ですが、これには以下の部門が当てはまると考えています。地図調査・作図・印刷調製、コース設定、計時速報システム、会場演出（MC含む）などです。そしてこれらの部門の人材はできれば全部有償で回したいです。まだ理想の状態には遠いし、予算の限られた中、自立前提で全日本大会の財政改革もミッションの中に入っていますので、最初は理念通りにはいかないかもしれません。ある程度は協力という言葉でごまかしてしまうかもしれませんが、将来にわたって人材を確保していくためには、きちんとした対価で報いなければならないことをずっと認識していきたいと考えています。これらのことで活躍して欲しい人材の方には私から、お声をかけていきます。また、自ら志願して私に声をかけていただくのはもっと嬉しいです。よろしく願います。

→改革初年度にあたる今回は、ずっとこの件を保留にして問題提起を起こさせてくれた、関東ブロック会議の顔合わせを兼ねて、少しでも全日本選手権者を戦える選手を多く輩出するため、プレ大会を矢板で3月12日に開催します（公認カテゴリA、前日の11日は公認S）。

JOA 内常設組織、全日本大会実行委員会とは？

これまで書いてきたことで、全日本プロデューサーという役職が、JOAの中の人のものであって中の人でない、全権掌握のものであって、全然全権掌握でない。全日本実行委員会というのは、民間人であるプロ事業者を組織の中に入れて活動していく為の、中央組織の中でのガバナンス役とでも説明すればよいでしょう。つまり、JOA側からはいつでもクビ取れる、雇われコンサルタントだということが理解していただけただけでしょうか？（そのうち座長から、公式な説明があると思います）

そして今の実情は、明日の全日本大会が開催できないという”緊急事態”。そのことはこれを読んでいる皆さん全員で自覚していただきたい現実のJOAの姿です。今後、JOA内部の各機関でも担当部分を細部にわたって検討していただかないといけないし、学連にも、学生による学生の為の自治組織とし

て決定権を経験浅い学生達が自ら握っているわけですが、多分この改革には、実際少なくない負荷があちこちにかかってくると思います。しかしその負荷は、明日のオリエンテーリング界のために乗り越えなければいけない壁、そういう考えで議論を進めていって下さい。成長に対して同じ方向を向くこと、それが統一理念です。決して「インカレ至上主義」を捨てなさいといっているのではありません。その先の視線まで平行した考察で議論して下さいということです。インカレだけ今の栄華？隆盛？をずっと続けていける訳では決してないことを考えに入れて下さい。

全日本とセレの融合が、最終ソリューションではありません。

私のミッションは、2年間の時限的ソリューション、学生界が全日本に融合し、真に全日本大会という地位を名実共に取り戻せばそれで完了です。その議論の中心は実は皆さんです。私はJOAの中に外部から入り込んで風通しを良くしたという役割にすぎません。”同じ方向を向く”という所から、現状の価値を肯定したまま、譲歩できる部分はという観点から、それぞれ議論を再構築して下さい。

今のJOAの中に入ってこの危機を救えるのも多分私しか居ないこともまた事実でしょうから、思うところある人は、今の立場が私にあるうちに何か言っておくというのは、多分とても効果的です。直接語りかけ、メール、LINE、Twitter 何でもOK、アカウントはどっかいけばすぐ判ります。(LINEとTwitterアカウント名は同じです)是非声をかけて下さい。

任期終了後、どうなるのかは私もまだわかりません。少なくともその先の全日本大会もインカレもずっと続けていける体制が求められるものになると思います。うまくいっていなければ、私はクビですし、留任というよりは風通しだけよくして、なんとかやり切ったら私は退任、あとは他種目の改革や選手育成の改革なども含めて、若い人の活躍の場となれば尚良し、というスタンスで行きたいと考えております。

これをもって、私の全日本プロデューサ就任演説終わります。長い文章にお付き合いいただきありがとうございました。実はこれ書き切るまでに、尋常でない位の時間を使いました。書いては消し、書いては消しです。(まだこの文書いている今でさえ途中欠落していて書き直すか、ぱったり出さなくていいで削除するかもしれません。)全日本大会を、今改革しないとこの国のオリエンテーリングの将来はない、ということを知っていただき、各人それぞれが今やるべきことを認識し、そして何か一步を踏み出してもらえれば幸いです。皆さんからの意見を聞くに及んで、考えを一部訂正したり加筆したりすることがあるかと思いますが、補遺としてそれも公開で進めていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひ致します。

<参考資料>プロデューサ応募文<2016. 4. 15 付>とその後求められたヒアリング回答<何日付>

~~~~~

## 立候補届出書

JOA 公示 2016 年 3 月 28 日 09:06 JOA 公示について、全日本オリエンテーリング大会を継続開催するために、全日本大会の開催を複数年のビジョンをもって推進するプロデューサに応募いたします

2016年4月15日

- 会社名(個人の場合は不要) (有)ヤマカワオーエンタープライズ
- 氏名 山川克則(代表取締役)
- 連絡先のメールアドレス rmo-s.yamakawa@nifty.com
- 連絡先の電話番号 090-8041-4673/047-486-5162
- 連絡先の郵便番号と住所 〒329-2441 栃木県塩谷郡塩谷町船生 6082-68  
自宅住所: 〒276-0027 千葉県八千代市村上団地 1-32-409  
もうひとつの拠点住所 〒503-0994 岐阜県大垣市綾野町 3504-116 (電話:0584-92-0366)
- 募集にあたってのコメント 昨年度は第2次ワーキンググループとして全日本(ロング)の継続開催のために、多くの時間とエネルギーを割き、激しい議論を主に主導してきました。この役は公益法人たるゆえに公募で行われているが、行った答申のかかなりの部分が私の提言によるものであります。提言にあるようにこのままでは、全日本(ロング)の開催引き受け手団体が無いどころか、日本のオリエンテーリング自体の存続を危うくする事態だと考えて、将来この世界がプロを交えた健全な循環世界となるために、尽力を申し出るものです。
- 複数年のビジョンを示す資料(A4用紙1枚程度)

この改革を進めるにあたって絶対に必要だと私が考えていることを、具体案を交えて述べます。

1. ボランティア活力だけで、一番負担の多い全日本(ロング)をこれ以上遂行していくことが限界なことは、多くの人が指摘している通り。先進的な技術やノウハウを持つプロを活用して、お金も人材も継続可能なように循環していけるフレームを作ることが必要である。昨年のWGでの議論において、プロはパワー不足を補う役で良いのではないかという議論があったが、それには激しく反対し論破した。本改革において、プロは決して便利屋ではない。
2. 中央組織できちんと競技の根幹レベルをコントロールすること。WG内で、全日本(ロング)を、JOA直轄大会として常設組織である実行委員会を設立すべきだと主張した。今までの全日本は、公認大会の延長と何ら変わらない。ナビゲーションスポーツの王道であるオリエンテーリングとして、この国の規準を作成しleadしている者が直接関与することによって、責任ある本当に競技レベルの高いしっかりとコントロールされた大会ができると考えている。そのために、必要な努力を惜しまず、適材適所で重要各所に最適の人材を配置する。また、そのスタッフは有償で確保することも視野にいれる。本職の役割は、その人材登用と全体アレンジであると考えており、

すべてを私が引き受けるという訳ではけっして無い。条件にプロデューサーは無償というのが記されていたが、将来を担うリソースが人もお金もきちんと循環していくフレームを作るべく尽力していくことが、私(プロである山川)の人生終盤の役割と考えている。なので、採算面からの応募ではないし、全部自分で引き追うけるというわけではない。追いつかない部分を手伝うことはあるかもしれないが。

3. コントロールは、競技レベルの維持、真に全日本レベルの大会を維持するために、テレインコントロールも必要である。募集要項はまず2年間の就任ということなので、当面2年分のテレインコントロール案を示す。正式に就任が認められたら、全日本実行委員会名でテレインコントロールに関しても、公示を行っていただきたい。

2016年度全日本 2017年6月開催案 栃木県矢板市「矢板日新」(日本学生オリエンテーリング連盟)

※矢板地区では、最難度のテレインという評価が定着している。一部、細かすぎる表現に走りすぎたキラエのエリアがあり、まだまだ洗練度を上げる余地がある。未調査エリアが残っており、さらに拡張の余地がある。地元の理解と協力は非常に得やすい環境にある。役員宿泊地として、無料の施設がある。WGで答申したように、それでも最長クラスは2マップにならざるを得ないかもしれない。しかし、それを補うに足る難& good テレインである。

2017年度全日本 2018年6月開催案 岐阜県中津川市「椈の湖」(日本学連・岐阜県協会)

※圧倒的にゆるい斜面と通行可能度のよさ、ヨーロッパのコンチネンタルテレインに我が国テレインの中でもっとも近いといわれているテレイン。地元もきちんと渉外すれば協力してもらえる。初版の範囲まで拡大すればワンマップで14キロ位のコースが組める。

どちらのテレインも我が国最高水準のテレインであり、当面の改革路線として、費用的なリスクを少なく抑えたまま、最高水準の大会が可能な場所で2年まづやってみて、その後のストーリーを見据えようというものです。

4. (これが何より一番重要/WGでも一番の力点をおいて議論しました)現状の全日本ロングの最も残念な部分は、全日本という名に恥じ、全国から全員が参加しないことが一番の問題である、と私は考えている。折角苦労して準備しても、最高の戦いがそこでは行われぬ。それはそれはむなしきものである。ここ数年はどんなに引き受け県協会が頑張っても、参加者600人で頭打ちである。最大人口を誇る学生界からは、半数以上が全日本に参加しない。また卒業して、オリエンテーリングを続けている人(MW21の層)もほぼ半数は参加しない。それでパブリックコメントでは、全日本継続してほしいのほしいと多くの人が叫んでいたが、それでは何も解決しない。またベテラン層にも、学生の大会は別次元の大会として(自分には楽しくないのでしょ)インカレなどに見向きもしない層も少なからずいる。しかし、これでは先はない。いくら学生オリエンテーリング界が今は栄えていても、日本の中央オリエンテーリング組織とそれを代表する大会が今の現状では、その繁栄はいずれ近いうちに終焉がくる。学生OL界だけが繁栄する未来ストーリーはないのだ。これを改革するためには、かなり大きなエネルギー、つまりとっかかりでは強引にでもオリエンティア全員を誘導させる

ようなアクションが必要である。そのための方策としてWG内で、どんな改革案を想定しているのかというのを聞かれて散々悩んでこれしかないと思って提案したのが、学生のインカレセクションと全日本(ロング)を融合することであった。今の500-600基調で推移している全日本参加数を、900-1000基調に継続的に持っていくことが、まず必要という主張である。今の全日本に参加しない層は、参加することに価値を見出していないからである。開催時期の問題もある。開催までには、多くの障害が横渡るだろうが、その難局はクリアしてでも、まず人とお金が循環できる数の参加者数に確実にもっていく、そして提供する競技レベルは、真に中央がコントロールしている、あらゆるナビゲーションスポーツから尊厳をもって評価される王道の大会を目指す。(細かい運用案も考えてありますが、それは就任後、常設実行委員会内の議論で深めたい) 900-1000基調にもっていければ、WGの答申にもあったように、全日本誘致に動く団体もある。少なくとも私はそういう団体を複数把握している。

まだまだ言い足りない部分はありますが、とりあえず以上です。よろしくお願い致します。

---

## 全日本プロデューサー立候補届ヒアリング回答

2016年4月29日提出  
(有)ヤマカワオーエンタープライズ 山川克則

### 質問 1: 2年間の財務計画について

スタッフを有償で確保することを視野にいれるようですが、全日本大会開催に伴う売上(見込み)で有償スタッフを雇い、利益を得られるストーリーがあるのでしょうか。有償スタッフの確保により、利益が減ることになると思います。2年間継続できることを確約してもらいたいです。

### 質問 2: 山川氏がやるということについて

ちゃんとスケジュールどおりに必要事項記載の要項を出して、十分な余裕を持って地図印刷などを行えるのか? これまでの実績から見て不安があります。  
プロデューサーを引き受ける期間の他の仕事の予定は? 職務専念義務、と言ったら大きさですが、全日本大会に一定のリソースを確保して仕事をして欲しいです。

### 質問 1、2 への回答:

全日本大会の運営に関しては、必要な作業を専門特化部門とルーチン運営部門に分け、専門特化部門は有償とし、先鋭的に各部門に取り組んでおられる方々に協力していただき、名実ともに全日本大会がナビゲーションスポーツの最高峰の大会となるよう努力します。山川が行うのはそのプロデュース業で、当社だけで専門特化作業を行うわけではありません。

補助金なしでもやれる独立会計体系が求められています。赤字になれば、当社持ち出しにして決算します。当社としては、そのリスクを冒してでも、中央組織の責任として全日本大会のプロデュース業務を行うことに価値があると判断しています。言い換えますと、後進の各部門の専門家が育ち、またその後長く活動していける素地と作ること、それには全日本大会の改革が最も必要なことだと考えており、そのプロデュース業務に投資することが、プロ先達者である私の責任であるという覚悟です。

### 質問 3: テレインについて

テレイン案として「矢板日新」と「椈の湖」が示されています。両テレインとも最近の大規模な大会としては、インカレミドル&リレーや全日本リレーで使用されています。

「競技規則および関連規則類のガイドライン」の「付表 2 オリエンテーリング競技形式の概念と基準」において、ロング競技のテレインは「良いルート選択が可能で体力的にタフなテレイン」が求められています。両テレインがガイ

ドラインに適合していることを示して欲しいです。

### 質問 3 への回答:

矢板日新:その後隣接する「矢板山田」も「矢板日新」と同じタイミングで使用実績に間が空いたことから同時クローズが適と判断(赤字分後日追記)。

学連の web に定量的な資料が公開されていますが、このエリアで最もナビゲーション能力を問うトレインであることを示すものです。まだ若干拡大することができその部分を活用すれば新鮮なコース部分も提供可能です。

それでも少し狭いので 2 マップを使用してロングコースを提供します。

この方法は「全日本大会を考えるワーキンググループ 2015」の答申にある通りの進め方です。

椈の湖

この地図は拡大の可能性を十分に残しており、初版の地図の範囲に戻せば 1 マップ、1 万5千で 12 キロのコースが提供可能となります。

両トレインとも、求められている全日本大会の財務改革を勘案しながら、今直ちにトレインコントロールを最小のリスクで執行でき、なおかつ上記のように求められるロングの要件を満たします。

### 質問 4: インカレセレクションとの融合について

もう少し具体的な説明がほしいです。アイデア自体は結構いいと思うのですが、学連との調整が必要だと思うが、それが次の全日本に間に合うのか? 遠方の学生の負担が増えることから、すぐに OK がもらえるか?

### 質問 4 への回答:

具体的には就任後の折衝次第です。細かな台本を色々用意していますが、実は学生側からも具体的な次世代型アクションが出てこないか期待している部分なので、自分の意見を強く推すものではありません。要は、“全世代のオリエンティアが一同に集まる場”が今の情勢に合わせて再構築できれば良いのです。ということで、学生には強くお願いするつもりで、質問への回答としては以下の声明やスタンスを今は述べるに留めます。

この改革がうまくいかなければ山川は失脚する。失脚すれば、学生オリエンテーリング界も山川が 40 年間やってきたことすべてを替わり得る人材が現れない限り、視界はたちまち不良となる。色々障害があるが、将来も持続していくため協力して欲しい、これくらいのことは言っていきます。

学生の側でも色々規定的に譲歩していただく必要もできます。今、学生に対して私が言論をもって諭していることは、「今、全日本がつぶれかけている。全日本無くして学生の世界インカレだけがこのまま繁栄していくことは無いよ。このままではいずれ近いうちに終わりが来る。オリエンテーリングというスポーツの特性上、全年齢層が勿論それは学生もほぼ参加するようなフレームを再構築することに、学生界も議論参加していかないと将来はないよ」

以上